

# [ラルフ・W・ハリス]「聖霊」

## VI. 聖霊のバプテスマ

ヨエル書 2 : 28-32 使徒行伝 2:1-21

ペンテコステの日は、キリスト教会の歴史における一つの大きな出来事であった。屋上  
の間に待ち望んでいた120人の男女の上に、彼らの言葉と生活を全く改変した経験が起  
こった。彼らは全く変えられてしまったのである。それらの信者を変えたものは、**聖霊の  
降臨**であった。私たちはこれを「**聖霊のバプテスマ**」と呼んでいる。



### バプテスマの預言的告知

小預言者の一人ヨエルは「ペンテコステの預言者」と呼ばれている。聖霊の傾注について  
預言したからである。ペテロがペンテコステの日に起きた現象を、集っていた多くの群集  
に説明するために引用したのはヨエルの預言であった（使徒 2:16-18）。

ほかにも聖霊が注がれることに関する預言があった。例えば、イザヤは「わたしはかわ  
いた地に水を注ぎ、干からびた地に流れをそそぎ、わが霊をあなたの子らにそそぎ、わが  
恵みをあなたの子孫に与えるからである」と言った（イザヤ 44:3）

新約の預言も同じように言っている。イエスの先駆者であるバプテスマのヨハネは「わた  
しは悔改めのために、水でおまえたちにバプテスマを授けている。しかし、わたしのあと  
から来る人は、わたしよりも力のあるかたで、**聖霊と火とによっておまえたちにバプテス  
マをお授けになるであろう**」と言った（マタイ 3:11）。ヨハネが用いた語は、ギリシャ語  
の「**バプテゾオ**」で「**浸（ひた）す**」という意味である。ちょうど信者たちがヨハネによ  
って水の中に浸されたように、**聖霊のバプテスマを授けられた者は、聖霊の中に浸され、  
聖霊にかこまれ、沈められる**のである。火によって象徴されていることは、**聖霊が心の中  
を燃えつくしてきよめることをあらわしている**。三位一体の神の第三位なるお方は聖霊で  
あるので、彼は罪を見逃すことは出来ないのである。

イエスもまた**聖霊が特別な方法で注がれる**ことを約束した。彼は弟子たちに、**上から力が**

着せられるまではエルサレムにとどまるようにと語った（ルカ 24:49）。彼は弟子たちに、間もなく聖霊によってバプテスマを授けられるであろうと語っている（使徒 1:5）。そして聖霊が彼らにくる時、力を受けるであろうと言った（使徒 1:8）。

## 聖霊の最初の降臨

120人の弟子たちが屋上の間へ行き、聖霊を待ち望んだのは、預言と約束に対する応答であった。その時、事は起こったのである。五旬節の日が来た時、その日の朝、聖霊は彼らにくだった。それは突然のことであった。天よりの響きとともに来たのである。イエスはニコデモに聖霊は風のようなであると語ったが、そこには激しい風が吹いてきたような大きな音があって、彼らが座っていた家いっばいに響きわたった。

すべて、これらの現象は彼ら自身も驚く、超自然的なものであった。しかし、多分その日の最も異例な現象は御霊が語らせるままに、彼らが他国の言葉を語ったことである。これはこの時以来、同じような聖霊の注ぎを特徴づけてきた悦惚（こうこつ）的な発言であった。人々は多くの国々からペンテコステを祝うためにエルサレムに来ていた。これらの来訪者たちは、聖霊に満たされた信者たちが、いろいろな国の言葉で語っているのを聞いたのである。

## 個人的な聖霊のバプテスマ

ペンテコステの日は教会の模範的な日であった。これを受け入れ、その模範に従った人たちは、それが真理であることを見いだした。ペテロは3千人の人たちが回心したほどの力をもって説教した。彼は人々が神の御子を十字架につけたことを責めた。彼は人々が罪を悔い改めるように語った。しかし、それらはすべて、彼らが今、強烈に明らかに見たのと同じ経験を受けるための序曲として語ったのである。

特に興味あることは、ペテロが聖霊の約束は単にそこに集っていた人々ばかりではなく、すべての人々のためであると宣言した事実である。彼は「この約束は、われらの主なる神の召しにあずかるすべての者、すなわちあなたがたとあなたがたの子らと、遠くの者一同とに、与えられているものである」と言った（使徒 2:39）。彼が語ったのはユダヤ人に対してであったが、約束は彼らの子孫たち、さらに救いに対する神の召しに応ずる、すべての人を含むものであった。

## バプテスマの性質

御言葉の中には、信者に臨み、信者に対し、また信者を通して働く聖霊を象徴したり、説明するためにさまざまな表現が用いられている。

その一つは「注ぐ」ということである。神はヨエルを通してこのような注ぎを約束された。それは、何か上からくるもの、また非常な豊かさを意味している。ほかの箇所には聖霊の刷新と祝福を示して、雨のたとえが用いられている。

最も一般的な言葉は「バプテスマ」というもので、これはすでに引用した言葉である。それから「満たす」という言葉があり、それは特異な意味を持っている。ペンテコステの日に信者たちは聖霊に満たされたと記されている。彼らは神の油注ぎに浸されたのである。

## バプテスマと新生との関係

ある善良なクリスチャンは、人は新生した時、聖霊のバプテスマを受けるのだと理解している。新生において、聖霊が主役をなすことは真理であるが、その時の聖霊の働きは聖霊のバプテスマを受ける時に起こるものとは異なるものである。

「新生」は聖霊の力によって神のいのちを賦与されること、信者に対して新しい性質を与えることを含んでいる。聖霊のバプテスマは回心の後に来るものである。聖霊を待ち望むために屋上の間にのぼった人たちは回心した人々であった。イエスは、彼らはきよめられたものであることを宣言された（ヨハネ 13:10、11、15:3）。また彼らの名が天に記されていると言った（ルカ 10:20）。イエスは彼らに息を吹きかけて聖霊の前味を与えられた（ヨハネ 20:22）。彼らは聖霊を持っていたが、満たされる必要があった。

聖霊が満たしの力をもって注がれたほかの経験は、使徒行伝に記録されているように、明らかにそれが回心の後に経験されるものであることを述べている。ピリポがサマリヤで説教した時（使徒 8 章）、多くの者が信じ、バプテスマを受けた。ペテロとヨハネがエルサレムから来て、これらの新しい信者たちのために祈り、彼らが聖霊の注ぎを受けたのはこれらの後のことであった。

エペソにおいて（使徒 19 章）、パウロは人々に聖霊を受けたかどうかをたずねた。彼がここでバプテスマについて言及しているということは、後に彼らが聖霊を受けるために[按手（あんしゅ）した](#)、という事実によって明白にされている。彼らが信じた時、聖霊を

受けたかと彼が聞いたことは、信じて救われども、なおその時に聖霊の満たしを受けるものではないということは明らかである。

## バプテスマの目的

イエスは弟子たちが聖霊のバプテスマを受ける主要な目的を示すために、聖霊が彼らにく  
だる時に力を受けるであろうと語った。そこで主によれば、その主な目的は、彼らが地の  
果てまで主の証人となるということである。

私たちは聖霊のバプテスマの神の目的を、初代教会においてこのすばらしい経験を持った人たちの生活の中に、また生活を通して起こったことからにより、語る事が出来る。一少女の前にためらい、震え、畏縮（いしゆく）したペテロから、偉大な使徒となり、キリストのために力強く証したペテロに変えられたことを考えてみるがよい。そして、その証しが非常に強烈なものであったので、非常に多くの信者が教会に加えられた。ローマ帝国を根底からゆさぶるために、屋上の間から出て行ったペテロや他の信者たちの変えられた生活を説明する、何かが存在するに違いないのである。

**聖霊のバプテスマは生活を全く改変するものである。**

ある教派の人たちはこのバプテスマを、聖別と呼ぶところの経験をさすものであるとしている。究極的な意味においては、聖霊のバプテスマは信者の生活における敬慶さに偉大な  
力をもたらすものであるが、根本的には、聖霊のきよめの働きはこれとは異なる。

「わたしの証人」とはイエスが言った言葉である。**聖霊のバプテスマはキリストのための信者の証しを効果あるものとするのである。**